

Amida Nyorai: Yearning for the Pure Land



企画展 阿彌陀如来

浄土への憧れ

あみだによらい



誰もが知るほどけである。阿彌陀さま。しかし、阿彌陀如来とは、一体どのようなほとけ様なのでしょうか。おそらく多くの方々は、「極楽浄土にいるほとけ様」という漠然としたイメージをお持ちなのではないでしょうか。阿彌陀如来は飛鳥時代にはすでに信仰されており、平安時代に密教が伝来したのちも尊ばれました。さらに浄土信仰が盛んになると、極楽往生へと導く救いのほとけとして国中で崇められるようになりまし。阿彌陀如来とその信仰は、日本仏教の展開とともに実にさまざまな様相を見せ、仏教美術の柱の一つとなつていったのです。

根津美術館には、コレクションの礎を築いた初代根津嘉一郎（1860～1940）が蒐集した、仏画や仏像をはじめとする仏教美術が数多く所蔵されています。嘉一郎は無神論的思想の広がりを感じ、その晩年に仏教思想の教導のため無宗派寺院の建立を目指していました。なかでも阿彌陀如来にかかわる収蔵品は豊富で、重要文化財や重要美術品に指定されている優品も複数あります。この展覧会では、館蔵品の仏画を中心として、日本における阿彌陀信仰の歴史とその広がりを見つめるとともに、高麗における作例もあわせて紹介いたします。

この展覧会が、阿彌陀如来にかかわる美術の華麗で多様な世界を知る機会となれば幸いです。

2022年 5月28日(土) ~ 7月3日(日) 日時指定予約制
根津美術館 NEZU MUSEUM <https://www.nezu-muse.or.jp>



◆ 来迎する阿弥陀のすがた



あみださんぞんらいごうず
阿弥陀三尊来迎図
1幅 絹本着色
日本・鎌倉時代 14世紀
根津美術館蔵

阿弥陀如来と観音・勢至菩薩の三尊が白雲に乗り、臨終を迎えた者の魂を極楽浄土へと導くさまを表した来迎図。この図様の来迎図は、鎌倉時代以降数多く制作された。三尊の慈悲深い表情は、まるで極楽への往生を祝うかのようである。

たいままだら
当麻曼荼羅
1幅 絹本着色
日本・南北朝時代 14世紀
根津美術館蔵

奈良・当麻寺に伝わる当麻曼荼羅は、浄土教の興隆とともに鎌倉時代以降、転写本が多数制作された。観無量寿経が説く阿弥陀浄土を描いており、阿弥陀三尊や諸菩薩とともに、楼閣や宝樹などが金泥や濃彩で華麗に表され、極楽浄土を荘厳している。

◆ 阿弥陀信仰と密教



重要文化財
こんごうかいほちじゅういちづんまんぢら
金剛界八十一尊曼荼羅
1幅 絹本着色
日本・鎌倉時代 13世紀
根津美術館蔵

金剛界曼荼羅の中央部のみで一図とした八十一尊曼荼羅。中心の大日五尊の上方（西方）には阿弥陀五尊が描かれ、その図像はのちに天台浄土教の母体となる宝冠阿弥陀五尊と通じる。

◆ 極楽浄土の情景



◆ 往生者と糸で結んだ阿弥陀如来



やまごし あみだず
山越阿弥陀図
1幅 絹本着色
日本・南北朝時代
14世紀
栃木・現聲寺蔵

山を越えて往生者を迎える正面向きの阿弥陀図を山越阿弥陀と呼ぶ。印を結ぶ指の間に傷みが目立つのは、ここから五色の糸を延ばして往生者と結んだためだろう。

◆ 那智の浜に現れた阿弥陀如来



くまの ごんげんようごうず
熊野権現影向図
1幅 絹本着色
日本・南北朝時代
14世紀
神奈川・正念寺蔵

熊野本宮大社の本地仏である阿弥陀如来が那智浜の宮に湧現した奇瑞を描く。本作は希少な中世の作例で、阿弥陀の着衣に施された截金文様がとりわけ美しい。

◆ 善光寺信仰の隆盛



重要文化財
ぜんこうじえんぎえ
善光寺縁起絵
3幅のうち中幅
絹本着色
日本・鎌倉時代
13～14世紀
根津美術館蔵

平安時代後期に浄土信仰が盛んになると、信濃国善光寺への信仰も全国へと広まった。その縁起を描いた本作の中幅には、伽藍と共に本尊の阿弥陀三尊が大きく描かれる。

◆ 高麗の阿弥陀如来



重要文化財
あみだにょらいぞう
阿弥陀如来像
1幅 絹本着色
朝鮮・高麗時代
大徳10年・忠烈王32年
(1306)
根津美術館蔵

鮮やかな朱と緑の衣に、金泥を多用して精緻な文様を描き込んだ高麗の阿弥陀如来像。当時の高麗宮廷画壇のレベルの高さを示す作例として名高い。元の都にいた高麗・忠烈王の速やかな帰還を祈って制作された、歴史的にも貴重な作例である。

同時開催展

展示室 5 はくらいもの 注文された舶来物

江戸時代初期、東南アジアやヨーロッパとの交易が盛んになると共に、大名や茶人たちは新しい茶陶を海外に求めるようになりました。眼を世界に広げて注文された、舶来物のやきものをお楽しみください。



おらん たばこのはもん みずさし
阿蘭陀煙草葉文水指
1口
フランスまたはオランダ 17世紀
根津美術館蔵

オランダにも見本をつけて茶の湯の茶碗や水指、食器が注文された。煙草葉文の水指はその一つ。華やかな雰囲気を見ている。

展示室 6 うちゅう 雨中の茶会

雨の中の茶会も、道具の如何によって風情溢れる楽しいひと時となります。梅雨時にふさわしい茶道具約20件を取り合わせます。



ちやしやく ともづつ さみだれ
茶杓 共筒 銘 五月雨
こぼりえんしゆう
小堀遠州作 1本 竹
日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵

江戸初期の大名茶人・小堀遠州の手による茶杓。節下にある小さな虫食いを梅雨（五月雨）時の夜空にあらわれた星に見立て、銘とした。

開催概要

展覧会名 企画展「あみだによらい じょうど阿弥陀如来 一浄土への憧れー」

日時指定予約制 ご来館前に当館ホームページより日時指定入館券をご購入ください。
(根津倶楽部会員、招待はがきをお持ちで入館無料の方も予約が必要です。)

主催 根津美術館

開催期間 2022年5月28日 [土]～7月3日 [日]

開館時間 午前10時～午後5時(入館は閉館30分前まで)

休館日 毎週月曜日

入館料 オンライン日時指定予約 一般 1300円(1100円) 学生 1100円(900円)

※()内は障害者手帳提示者及び同伴者1名の料金。中学生以下は無料。

※オンライン日時指定予約の定員に空きがある場合のみ、当日券(一般1400円)を美術館受付で販売いたします。

※2022年5月24日(火)より当館ホームページで予約を受け付けます。

アクセス 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線〈表参道〉駅下車A5出口(階段)より徒歩8分、
B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベーターまたはエスカレーター)より徒歩10分

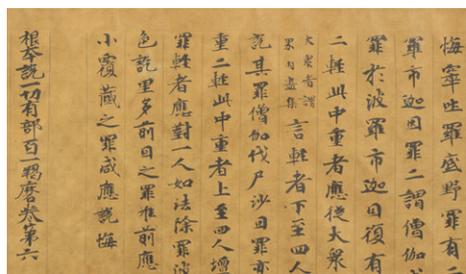
住所 〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1

お問合せ Tel. 03-3400-2536 (代表)
website <https://www.nezu-muse.or.jp>

当館の広報制作物に関して、郵送からメール配信への切り替えをご希望の方は、根津美術館広報課へどうぞお知らせください。(press@nezu-muse.or.jp)

次回展

企画展「よめないけど、いいね！ー根津美術館の書の名品ー」
2022年7月16日(土)～8月21日(日)



根津美術館の多様な書のコレクションを、名品を中心に紹介。くずし字や変体仮名がよめなくても楽しめるよう、鑑賞のポイントをわかりやすく説明します。

こんげんりふ いちごん
国宝 根本百一羯磨 巻第六
日本・奈良時代 8世紀 根津美術館蔵

*本資料掲載の内容は、予告なく変更になる場合がございます。最新の情報は当館広報課へお問い合わせください。(2022.3)